

令和5年第1回 安全対策連絡協議会

●開催日時

令和5年2月24日(金)午後3時から1時間

●安全対策講話

渡邊信也 在シドニー日本国総領事館警備対策官

「豪州における詐欺の実態ほか」

本日は、ご参加の皆様の最も身近にあると言っても過言ではない詐欺について、被害状況や主な手口といった実態について説明した後、主要犯罪の動向、また本会議に先立ち寄せられた質問事項や要望等に応える情報をご紹介します。

最初に以下のテキストメッセージにピンと来た方も多いと思われるが、いわゆる詐欺メールである。

Hi Mum and Dad, this is my new number. My phone is broken. Please send me a message on WhatsApp!
[0458902053](https://wa.me/0458902053)

Hi Dad, my phone won't turn on anymore. this is my temporary number i can't receive all my messages can you send me a message on WhatsApp?

Your overdue final toll invoice has been put on hold, please deal with it promptly, details:
rebrand.ly/Oosbimg

General message MyGov, Your \$12,688.52 Refund has been delayed, kindly visit to <https://studiomargate.co.uk/secure/Mygovaustralia> to finalize the process.

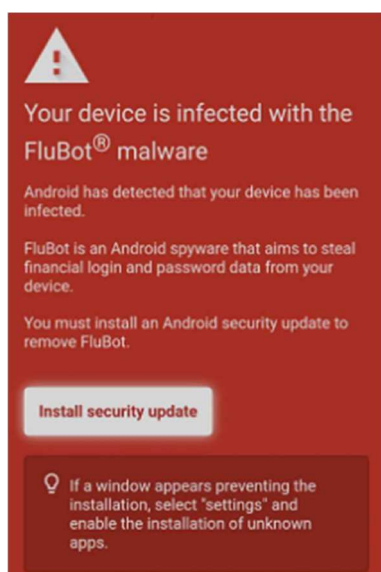
明らかに怪しいものから「ひょっとして」と思ってしまうものまで多岐にわたる。詐欺師は手を変え、品を変えて常にアップデートを繰り返しながら獲物が罠にかかるのを虎視眈々と狙っていると言える。

ANZ: Access to your online banking has been suspended. Please visit <https://s3-secureanz.com> for more information.

ANZ ALERT
Due to a suspicious payment request your ANZ Internet Banking has been temporarily restricted. Please visit <https://anz-banking4.com/> immediately to verify your accounts.

これらのテキストメッセージは携帯電話の番号から送信されるが、実はこの携帯電話番号にまつわる興味深い話がある。

下の警告表示をご覧頂きたい。この警告表示は、これまで紹介してきたテキストメッセージに貼られたURLをクリックした途端に表示されるものである。



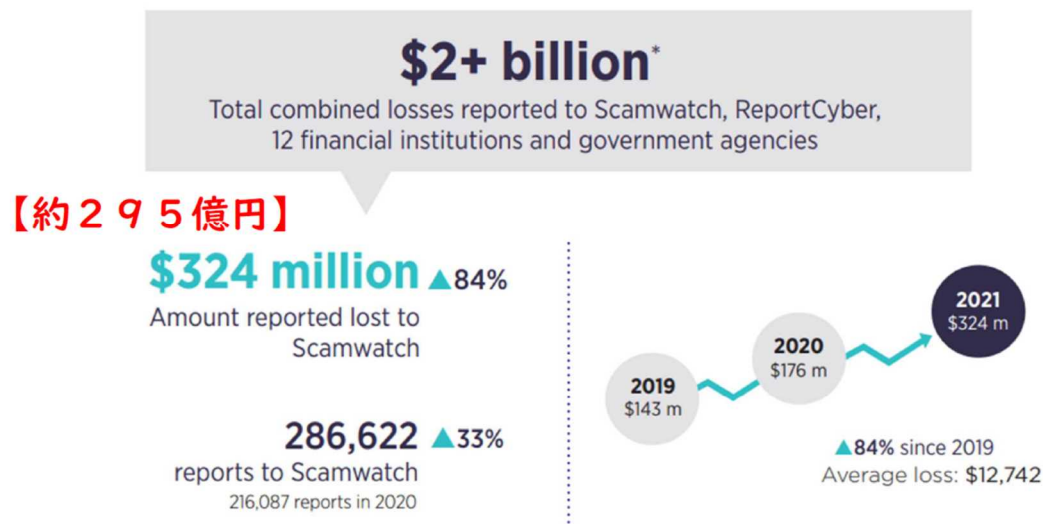
この警告では「携帯電話がマルウェアに感染している。今すぐセキュリティアップデートが必要である」との表示がなされるが、実はこの警告文が表示された段階では未だマルウェアには感染しておらず、警告文を見て慌てて白いボタン「Install security update」をクリックしてしまうことでマルウェアに感染する仕組みになっている。

もちろん全てのテキストメッセージのURLが同様の手口であることはないため、あくまで一例として認識頂きたいのだが、このマルウェアに感染すると、携帯電話が遠隔で操作されるようになり、例えばテキストメッセージの閲覧・送信、電話発信、連絡先（電話帳）へのアクセス、（携帯電話に保存した）パスワードやアカウントにアクセスされる可能性があるようである。つまり、自身の携帯電話が詐欺メールを送信するために利用される危険が生じるということである。

なお、詐欺の入り口はテキストメッセージに限らず、大手SNSサービスに表示される広告でも頻繁に表示される。

極端に安い値段での販売を謳うものや、世界的有名企業への投資を通じて短期的に莫大な利益が得られることを保証したようなものが溢れていることから、決してこのような誘惑に乗らないことが重要である。

それでは詐欺被害の全体像はどうなっているのかについて説明する。



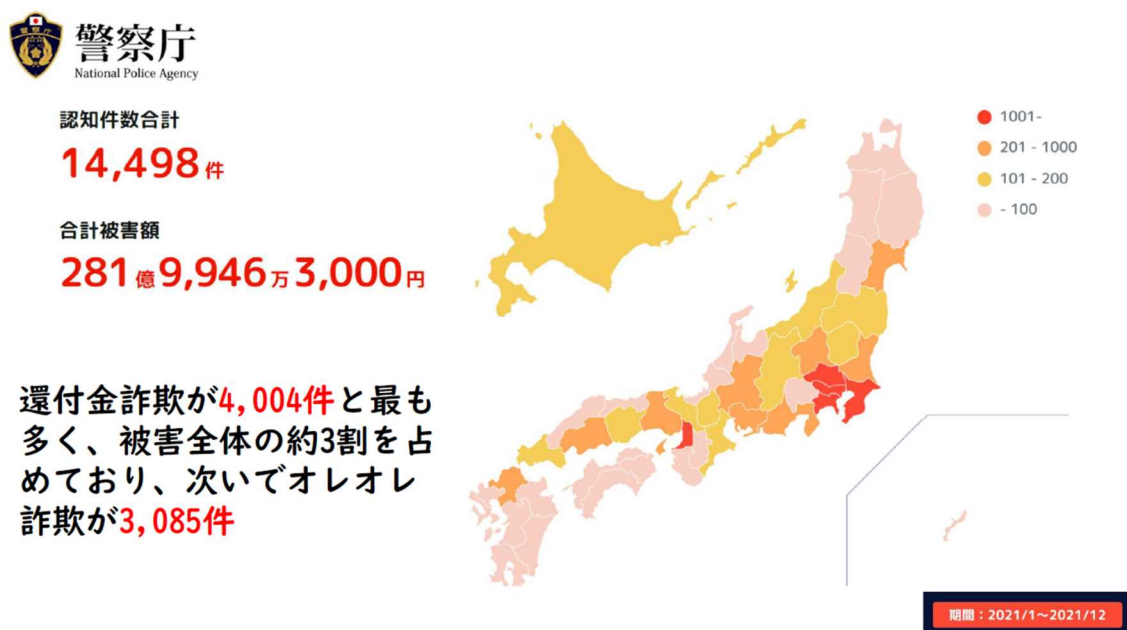
政府サイトにて2021年の統計が公表されているが、被害額は年間3億ドル以上、日本円で約295億円が詐欺師によって奪われている実態が明らかになっている。し

かも2019年では被害総額が1億4千万ドル程度であったことを考えるといかに深刻であるかがお分かり頂けるものと思う。

次に、下の図は同時期の日本の状況となっている。

合計被害額は約282億円と豪州の被害が若干上、ただ、豪州全体の人口が約2千5百万人と日本の約5分の1であることを考えると、豪州での詐欺被害はとても深刻であることが分かる。

人口10万人あたりの被害件数では実に日本の8.5倍にも上る。



次に、豪州での詐欺被害を手口別に見てみる。

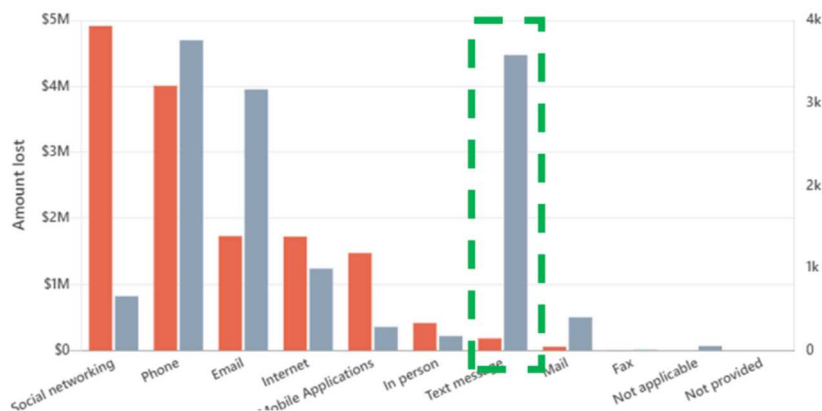
下のグラフは左から被害額が多い順に並んでいる。

Top scams by loss as reported to Scamwatch



ご覧のとおり、投資詐欺が圧倒的に多く、次いでデーティング・ロマンス詐欺。日本では還付金詐欺、オレオレ詐欺がほとんどであるため、手口では日本と豪州では大きな違いがあることが理解できる。

次に、詐欺行為が行われた際の連絡手段別のデータ。



灰色の表示が連絡手段。赤色が被害額を表示している。

緑色で囲んだ部分はテキストメッセージが連絡手段として利用されたものを表しているが、灰色が極端に多い(テキストメッセージが詐欺の手段として頻繁に利用されている)が、被害額はそれほど高くはない。

皆様が頻繁に受信するテキストメッセージは、実際にはお金を騙し取られるといった被害に結びつくケースは限られているものと解釈できる。

Cryptocurrency scams

Romance baiting

Celebrity Endorsement Scams

政府サイトでは投資詐欺の中でも最も多い手口も紹介しているので紹介する。

まずはクリプトカレンシー詐欺、暗号通貨への投資を謳う広告、勧誘等に載せられて投資をしたものの、実際には詐欺師にお金を渡していただけといったもの。

次はロマンス・ベイティング、詐欺師が恋愛感情を装って近づき、親密になった頃合いに投資話を持ちかけるもの。

最後はセレブリティ・エンドースメント詐欺、いわゆる有名人のお墨付きを謳って勧誘する詐欺となる。

ご参加の皆様は、説明を聞いただけで明らかに怪しいとお感じるであろうが、実際には当館でもロマンス・ベイティングの被害に遭ったという邦人女性から相談を受けたことがある。概要としては SNS サービスを介して知り合った外国人起業家とメッセージのやりとりのみで恋人関係となり、結局一度も会うことなく恋人と称する男性に言われるまま暗号通貨に投資するアプリをダウンロード、そのアプリを通じて700万円ほ

ど騙し取られたといったもの。



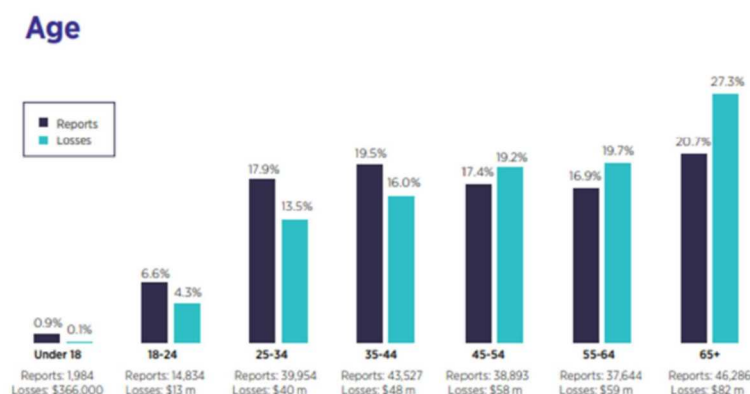
SCAMMER GIRL
He was a boy. She was a bot.
Can I make it anymore obvious?



From the producers of
My Best Friend's Bot

上記の広告は連邦警察(AFP)によるもの。

これはバレンタインデーを控え、SNSを介した詐欺への注意喚起を行うものである。恋愛感情を装った詐欺は、バレンタインデー、クリスマスなどのイベント前、または大型連休の前などは特に増加傾向が顕著になるようで、このような注意喚起が関係機関から発出されている。



上記は詐欺の被害年代別のグラフである。
水色は損失額、紺色が報告件数となっている。

被害額は年代が上がるごとに増えているように見えるが、保有資産あるいは詐欺師に渡せる金額も年代があがるごとに増える傾向にあらうかと想像できるので、実質的には世代による違いはないと言える。高齢者の被害が圧倒的に多い日本とは異なっていることは明らかであり、この点を特に認識しておく必要がある。

- 誰にでも詐欺の罠は身近にあるという意識を常につ
- 怪しいテキスト・電話を受けた場合は削除、切断（相手に反応しない）
- 詐欺（Fraud? Scam?）の被害を受けてしまった場合には
まずは警察、そして銀行、政府窓口等へ

それでは最後に当地での詐欺に対する注意事項を紹介する。

まずは「詐欺の罠は常に身近に潜んでいる」という意識を強く持つこと。

何をするにも「もしかしたら騙されるかもしれない」というより、「2～3割の確立で詐欺に遭う危険があるな」くらいの気持ちを持って常に警戒する。2～3割という数字に根拠はないが、先に紹介した2021年スキュムの報告件数が人口比に換算すると約89人に1件となっているので、決して過大な表現をしている訳でもないものと考えている。

次に怪しいテキスト・電話を受けた場合には一切相手にしないということ。

特に電話では非常にフレンドリーに、当初はまさか投資の話に持って行くとは想像もできないほどの話題で懐に入ってくる場合もある。一旦話を聞き始めてしまうと、なかなか切るタイミングを見つけるのが難しくなることも十分考えられるので、初めから相手にせず切断することが大切である。

最後に、もし被害を受けてしまった場合、まずは警察に相談すること。

詐欺師にお金を振り込んでしまった場合であっても、取引状況によっては銀行が差し戻しに応じるケースもある。また、場合によっては銀行のアカウントを一時停止する

必要があるかもしれない。また、税金にまつわるスキームであればタックスオフィスに、投資詐欺であれば政府セキュリティ&インベストメント局への報告が推奨されている。いずれにせよ警察にご相談すれば適切な報告先の案内があらうかと思いますのでまずは警察に相談すること。もちろん当館に相談に報告頂ければ、適切な報告先等の案内は行うので、困ったら遠慮無く相談して欲しい。

以 上